那賀町医療未来会議　第２号　令和８年10月１日発行　那賀町役場 医療政策課　（第3・4回 合併）

那賀町医療未来会議だより



第３回 医療未来会議の様子

1 医療未来会議とは？

那賀町の医療を、これからどう続けていくか

町民と町が一緒に考える場です。
公募で選ばれた町民委員25名を中心に、
医療関係者や行政が参加しています。

**医療をなくさない。そのうえで、
できていないことを、できるようにする。**

2 これまでのあゆみ

第１回：令和７年１２月　医療の現状と課題を知る
第２回：令和８年　３月　必要な医療、望むことを出し合う
第３回：令和８年　５月　６つの配置案について考える
第４回：令和８年　８月　お金と人の見通しから案を比べる

示された６つの案

- **A-1** 上那賀病院を強化する（入院できる）
  日野谷診療所は上那賀病院にまとめる
- **A-2** 日野谷診療所を強化する（入院できる）
  上那賀病院は無床診療所に
- **A-3** 上那賀病院はベッドを減らして有床診療所に
  （入院はできる）日野谷診療所も残す
- **B** 下流域に新しい病院をつくる（入院できる）
  上那賀には無床診療所が残る
- **C** 下流域に新しい診療所をつくる（入院できる）
  上那賀には無床診療所が残る
- **D** 下流域に新しい診療所をつくる（入院はできない）
  上那賀には無床診療所が残る

※２４時間救急の対応はどの案でも共通の前提です



上那賀・木頭・木沢にお住まいの方へ…「奥の医療がなくなるの？」

- 木頭診療所についてはこれまで通りです。木沢診療所についても当面の間はこれまで通りです。
- 遠くなる地域は、訪問診療・オンライン診療・医療ＭａａＳ・交通手段で補います。
- この号では、下流域に新しい拠点を求める意見が多かったことをお伝えしますが
  上那賀よりも奥の地域の医療がなくなるということではありません。

3 第３回で出された主な意見

- いまある施設を有効に活用すべき
- 入院できる機能は残してほしい
- 人口減少を考えると、有床診療所でもよいのではないか
- 医師や看護師を確保できる場所に拠点を置くべき
- 集約によって遠くなる地域の通院手段が必要
- 訪問診療や在宅での看取りを充実してほしい
- ２４時間対応を実現してほしい
- 町内の民間医療機関が閉院した場合の受け皿が必要

今ある施設を残すことと将来も医療を続けられることは
必ずしも同じではありません。

4 まだ決まっていないこと

第３回・第４回で示された案や投票結果は、
会議参加者の意見を整理したものです。
次のことは、いずれもまだ決まっていません。

- 医療機関（新しい施設）の建設場所
- 施設の種類（病院か、有床診療所か、無床診療所か）
- 既存の医療機関を今後どうするか
- 実施する時期

これから、収支の根拠、人材確保、交通、災害時の対応、
上流地域の医療をどう守るかなどさらに検証していきます。
最終的には、町が責任を持って判断していきます。

那賀町の医療を守るために、町民のみなさんができること

町立の医療機関は、常に町民のみなさんの「かかりつけ医」でありたいと考えています。
そのためには、医療機関としての努力が不可欠です。と同時に、町民のみなさんのご理解とご協力が
欠かせません。町の医療をどう支えていくか、どう育てていくかをみなさんで考えて行動しましょう。

**医療は、誰かに「してもらう」だけでなく、
町民と医療者が一緒に育てていくものではないでしょうか。**



令和８年８月31日開催　第４回 医療未来会議

「お金」と「人」の現実を見て考えました

第４回では、第３回で示された６つの配置案について、10年後・25年後を見据えた人員配置や収支の試算が示されました
「こうあってほしい」という希望だけでなく、「それは将来も続けられるのか」という視点から話し合いました

1 第４回で示された３つの視点

遠くても医療を受けられるか

医療機関が遠くなることと、医療が受けられないことは、同じではありません。訪問診療、オンライン診療、通院の足。これをどう組み合わせるかが課題です。

人材と財政を確保できるか

町全体のお金は、約100億円から70億円規模に減る見通しです。医療への負担が大きいままだと、福祉や道路にも響きます。資料では、医療への町の負担を、いまの約３億円から約２億円に抑えたいという考えが示されました。

どこに拠点を置くのがよいか

患者もスタッフも通いやすく、買い物や用事もまとめて済ませられる場所。そして、災害のときに孤立しない場所。この両方を満たせるのはどこかが課題です。



2 数字で見る、現在と将来

今の上那賀病院の、収入に対する

赤字▲101%

ほかの類似する町立病院では赤字割合▲13～49%

年収300万円の家庭が600万円を使い、
300万円以上を借りている、そんな状態

3 10年後の赤字の割合見通し

収入に対する赤字割合			
	A-1	上那賀病院を強化	▲85%
	A-2	日野谷診療所を強化	▲28%
	A-3	上那賀病院を有床診療所に	▲82%
	B	新しい病院	▲30%
	C	新しい有床診療所	▲28%
	D	新しい無床診療所	▲８%

現行の体制をそのまま続けると、将来の町の負担が大きくなりすぎます

今ある施設を使い続けても、修繕にお金がかかります。「今あるから安い」とは限りません。

4 投票結果（参加委員による投票）

A-1	上那賀病院を強化	１票
A-2	日野谷診療所を強化	０票
A-3	上那賀病院を有床診療所に	２票
B	新しい病院	１１．５票
C	新しい有床診療所	１２．５票
D	新しい無床診療所	３票

B案とC案がほぼ並んで多数を占めました。第３回ではA-2・A-3・C案への支持が比較的多く、B案には財政負担を心配する意見が多くありました。ただし、これは最終決定ではありません。

5 なぜ、意見が動いたの？

- 既存施設を残すことが、必ずしも低コストではないということが分かった
- 既存施設の改修には国の支援がつきにくい一方、新たに整備する場合には、町の負担を抑える仕組みがある
- 人が集まり、災害にも対応できる拠点が必要ではないか
- 医師や看護師を確保するには、通勤しやすく、子育てもしやすい場所が必要ではないか

「本当に持続する形を考えたら、財政や人材確保、利便性…持続性や、医療はどうあるべきかを考え意識が変わってきた」　― 委員の発言より



動かなかった意見もありました　多数にはなりませんでした。でも、取り下げられたわけでもありません。

「もっとも孤立しやすいのは上流の３地区。それなのに、なぜそこで医療を確保しないのか」
「医療機関が下流に近づくほど、もっとも医療を必要とする人が取り残される」
「個人的には、上那賀病院を残してほしい。でも、人口減少を考えると、強くは言えない」

上流の医療をどう守るのか。ここに答えが出せなければ、どの案でも、町の医療を守ったことになりません。

6 これから確かめること

- 試算の根拠と、町の実際の負担
- 必要な医師・看護師をどう確保するか
- 上流の人を取り残さない交通と訪問診療
- 災害時の拠点、在宅医療と看取り

お問い合わせ
那賀町役場　医療政策課
電話：0884-62-1116
場所：那賀町役場相生分庁舎（那賀町延野字王子原31番地1）

あなたの声が、会議に届きます
ご意見お聞かせください